

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227

広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成27年5月(2015年) No.593

第55回 OMC映像フェスティバル 9月20日(日曜日)と決定

このほど発表会開催の場所とりに、江村世話役が大阪市立中央会館の抽選会に行かれましたが、館の都合もあって10月は全然空いてなくて、9月20日だけが空いているというわけで、その日を確保されました。例年より1ヶ月位早い時期でまだ残暑きびしく、台風の影響もあるシーズンですが、運を天に委せて実施するほかありません。11月まで待つかという選択肢もありましたが、大阪アマチュア映像祭が中央図書館まつりの協賛事業として11月前後に予定されていますので、これもできません。今後、秋の休日開催は場所の確保が難しくなるかもしれません。ウィークデイの開催も検討課題の一つになるでしょう。事実、東京、名古屋も平日の午後を開いており、実績を上げているところも多くあります。休日はむしろ、孫が来るからとか、行事があるとか、かえって平日の方が外出しやすい、というわけですが、それだけ来場者が年配者が多いということの証しでしょうか。8ミリ時代の発表会は金曜日の夜が多かったが、来場者がサラリーマン等勤め人が多かったので、休日前の夜の方がよかったです。休日に郊外の自宅からわざわざ都心の発表会会場まで出掛けてくるのもしんどいということもあったでしょう。いずれにしても時代と共に観客の年代層も変わってきましたので、来年の課題として平日の午後開催を検討いたしましょう。

さて、今年の発表会は55回目の小さな節目ではありますが、とにかく55回目の開催です。今年も節目に相応しい良い作品、来場者の皆様の記憶に残る作品を散りばめたプログラム構成をしたいものです。原則として7月例会作品までのなかより選んで出品作を決めますので、皆さんどうか頑張って作ってください。(会長・合原一夫)

5月例会のお知らせ

5月例会は第4土曜23日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。良い季節となりました。楽しい例会にぜひお出掛けください。

■入賞おめでとうございます

ビデオSALON 5月号

「魁!!ビデオ道場」コンテスト

ADコラボ 3分55秒 入賞 有村博

■上田吉巳氏が休会届け

上田さんからお電話があり、目の病気で「網膜剥離」の手術を受け、当分、暗い部屋で映写を長時間見ることは禁止されたとのことで、例会を退会ではなく少なくとも年内一杯は休会とさせていただきたい、とのことでした。病気回復を祈念いたします。

■今後の上田氏司会担当の交代

・6月：上田→合原、9月：上田→合原

■ビデオ勉強会立ち上げ準備進む

平日の午後、OMC 第二の会として、ビデオに関するソフト・ハードの問題、作品のレベル向上への対策として OMC ビデオ勉強会を月1回開催することにしました。

決まり次第発表します。ご期待ください。

4月例会レポート

連日の春雨を降らせた鉛色の雲が立ち去り、やっと青空をのぞかせた4月下旬、尾張津島の天王川公園に東洋一の藤棚を見に行ってきた。5000平方メートルの敷地に甘い香りに包まれて風にそよぐ壮麗な藤が圧巻でした。そんな初夏を感じさせ汗ばむ季節に入った25日(土)例会が難波市民学習センターで開催された。

この日の出席者は22名で作品数は18本出品されました。非持参者は4名だけというおそらく例会初めてではないかと思われまます。2~3本の積み残しは出るだろうと予想していましたが、司会者の絶妙な時間配分でわずかな超過時間ですべて上映を終えることができました。撮影会作品の編集もままならない時に会員諸氏の作品制作の熱心さに驚きです。

今月の司会は有村氏、映写係に井上、河合の両氏、録画係に江村氏、受付係に森下、宮崎の両氏、書記は岡本(筆者)、掲示係りは紙本氏の担当で進行しました。

■出席者：赤澤、有村、上田、江村、岡本、蟹江、紙本、河合、黒田、進藤、関、高瀬、

鉄具、西井、華岡、前田、宮崎、森口、森下、山本、吉村、渡辺(敬称略)の22名でした。

■上映作品(作品はすべてBDです)

(今月の講評は岡本世話役です)

1. 長篠の戦い ~ 戦国最強武田騎馬軍団の落日 ~ 紙本 勝 14分10秒

OMCにはいろいろなジャンルの作家がおられますが、歴史ものにかけては、この人が第一人者といえるでしょう。城シリーズも手がけられていて、今回は百名城にも数えられている長篠城について纏められたものです。長篠の戦いは天正3年にこの城をめぐる、織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼との間で勃発した戦いのことから詳しく解説されていきます。信長が武田勝頼の「騎馬軍団」を壊滅させたという戦法をよく調べられました。現地に2回行かれたようで、「歴史を頭にいれて行かれないとこんな作品はつくれない」と司会者のお話がありました。両軍入り乱れた熾烈な戦いは壮絶だったようで、すごい作品を作られました。後編も制作予定だそうです楽しみにしています。

2. 三千院の春

西井 学

7分10秒

12月の例会で見せていただいた「三千院の秋」そして、2月例会で「雪の三千院」に続いてこの作品です。ご自宅から40分ほどで行けるそうで四季をお撮りになられているようです。桜があり、春の風情がでていました。お経がBGMに使われていますが、画面と合わないところは別の音楽に変えたほうが良いかと思いました。春なので明るくあつかつてはと思います。

3. 桜花爛漫姫路城

上田吉巳

3分15秒

世界文化遺産国宝姫路城の桜は満開になりました。今年リニューアルされた姫路城と満開の桜に「播磨姫路音頭」の歌で構成されました。城と桜はよく似合います。

4. 波濤の果て

河合源七郎

6分56秒

舞台は厳寒の日本海でしょうか。今まで何作か拝見しました。今回は海岸だけで纏

められたようです。さすが河合作品と思います。荒れ狂う厳寒の日本海がよく出ています。カメラは海水にぬれませんでしたか。絵図と BGM をもう少しマッチングさせるともっと迫力がでるのかなと思いましたがりっぱな作品に仕上がりました。

5. よさこい梅の辻

江村一郎

7分30秒

「土佐の高知のはりまや橋で坊さんかんざし買うをみた」高知で詠いつがれて60余年、南国の情熱と自由な気風が合わさって生まれたよさこいのリズム。それを江村カメラが追います。

平成13年の撮影作品。梅の辻とは高知の地名だそうです。毎年撮影されては作品をつくりつづけておられる作者。独特なカメラアングルが見る者を画面にくぎづけにし、妖艶な衣装とよさこい節が見る人の心を虜にするのだろうか。それどれに作品のよさがあり、飽きさせません。これからもよさこい作品を作り続けてください。

6. 春爛漫

吉村健一

6分40秒

桜の季節、遠くに出かけなくても桜の名所は近くにあるものです。東大阪にお住まいの作者。市東部の住宅地を南北に流れる玉串川、約1000本の桜並木が5キロにわたって桜のトンネルを演出しています。そこを撮影地に選ばれました。満開のソメイヨシノが咲き誇る桜並木をうまくとらえられました。桜に吊るされた短歌のアップもあり、日本の詩情歌とナレーションでうまく綴られました。桜をテーマにした作品は最後の「END」は日本語の方が似合うと思います。

7. ADコラボ

有村 博

3分55秒

この映像は、平成元年頃ブラウン管テレビにスイッチ入れ、何も写っていない画面に SVHS のビデオカメラを向けて撮影した電波ハウリングの映像ですと説明されています。ひとつとして同じ映像がでることはなくてカメラを動かすだけでこのような多様なアナログ映像が撮影できるとのことです。楽しい作品を拝見しました。 なお

この作品は、ビデオサロンの「ビデオ道場」で入賞されたそうです。(4月号に記載されています) おめでとうございます。

8. エスファハン

華岡 汪

16分38秒

昨年5月旅行されたそうで、イラン共和国の都市です。古くから政治・文化・交通の拠点であり歴史的・文化的な町であり、その美しさは「イランの真珠」と例えられているとの解説からスタートします。そんな町を克明に紹介されていきます。政治・文化の歴史をよく調べられた紹介ビデオでしょう。圧制から逃れた豊かな文化をもつ平和国家の印象をうけました。よく纏められました。ご苦労様です。

9. ワナメ

山本正夢

9分20秒

いつもめずらしい国を訪ねられて作品にしてもってこられます。ワナメとはニューギニアの地名だそうです。ネットでさがしても出てきませんでした。陸路はなく飛行機でしか行けない所(密林の孤島)だそうです。すごい所に行ってきた。ドイツ語を話せる村長さんがいて作者と会話できたそうです。1983年にアメリカ空軍がはじめて現地人を発見したとかで、多少の文化も発達しているようです。いろんな国があるものですね。今は年間1000人くらいの観光客が訪れているようです。なかなか行けない所を拝見しました。

10. 五軒家えびす

宮崎紀代子

5分12秒

富田林にお住まいの作者、地元の五軒家えべっさんです。小高い丘の上にあるえべっさんで毎年お参りされているそうです。土地の皆さんでお祭りされていて、なんとなく微笑ましい雰囲気や地域の様子が伝わってきます。場所の説明がほしいと司会者のアドバイスがありました。またナレーションのところは SE 音を低めにしましょう。

11. ある駅長さん

前田茂夫

12分48秒

兵庫県小野市の栗生駅から加西市の北条駅まで13.6キロメートルを8駅、22

分で結ぶ北条鉄道がある。その途中の法華口（ほっけぐち）駅のボランティア駅長さんのことです。また駅入口にはおしゃれな看板「駅舎工房 Mon Fabonvori モン・ファボリ」が掛かっている。この店長さんでもある、北垣美也子さんを取材されました。パン工房のパンを焼きながら、一時間一往復の一両列車を見送る業務にあたられる姿をカメラが追います。なんとも愛らしい情景が画面ににじみ出ています。法華口の人気ものになっていて訪れる観光客が増えているようです。インタビューを交えながらドキュメンタリー風に構成されました。ただ北垣駅長さんお休みの時の映像はちょっと違和感を感じましたので省いた方がいいかも知れません。良い作品になりました。

12. カタクリ詩情

進藤信男

7分00秒

兵庫県丹波市清住にある十九達見寺の庭園に咲くカタクリの花です。カタクリは水仙やつばきに続いてサクラと共に山里に春を告げますとのテロップが流れます。花から取れる良質のでんぷん（片栗粉）になるということです。すごく群棲しているんですね。花一輪のアップがほしかったですね。凛々しく可憐な花、はなやいだ都人の群像とオーバーラップすると結ばれました。

13. ぶらり嵯峨野路・新緑の息吹き

森口吉正

6分00秒

新緑の京都嵯峨野路の映像詩です。4月の中頃に行かれたようです。いつもの作者の流暢なナレーションはありませんが、新緑の詩情豊かな嵯峨野路を堪能させていただきました。

14. 人麻呂の断片～阿騎野と沙彌島～

鉄具嘉夫

9分29秒

万葉文学に大変お詳しい鉄具さん。すごい作品をお作りになりました。このジャンルには弱い筆者なので講評は差し控えさせていただきますが、柿本人麻呂は、万葉歌人の中でも、最も優れた歌人であったようで、その生涯も不明なことが多いとされている。歌を紹介しながら、かれの生涯をよく調べられて纏められました。

15. 大阪城の梅林

渡辺雄史

6分20秒

大阪城のボランティアガイドをされている作者。梅林を詳しく解説されて作品を作られました。よくわかりました。百科事典より詳しいです。ただSE音はなくても良いと思いました。

16. 別府地獄めぐり

赤澤興三郎

8分30秒

九州は別府温泉めぐりを作品にされました。バスツアー旅行だと思えます。なかなか作品にしにくいと思えますが、テーマを絞って余計なカットは外されるとよい作品になると思えます。

17. いくたびの桜

高瀬辰夫

8分20秒

京都にお住まいの作者。JR 二条駅前の桜、「一重白彼岸枝垂桜」を4年前から追っかけられて撮影されました。最初は桜のつぼみに雪のシーンから始まります。やがて開花、降雨あり、青空あり、そして桜の花は散っていきます。途中から、ふくい舞の「いくたびの桜」の歌が流れます。歌詞をよく聴くと、「今年の桜は早めに咲いた、二人は肩寄せ、この道を歩くよ、桜の咲いてるわずかなこの時誰もがつかの間、はなやぎ生きている・・・・・・・・・・」今年も大事にして散るまでの花を見る・・・・・・・・・・」という歌が流れる。まさに桜の命を表現しているようです。最後に「来年も満開の花を咲かせることでしょう」とのテロップで終わります。

ところどころに電車のカットがでますが、あまり多様すると映像がだれますのでとった方が良かったと思いました。

18. 美琴ちゃんの初節句

蟹江利一

9分55秒

ひ孫さんの初節句の模様を撮られたホームムービーです。微笑ましい映像が続きます。記録に残りますね。撮り続けられますとひとつの作品ができます。トップシーンは主役の顔から出した方がインパクトがあります。エンディングの「おつかれさん」は「おすこやかに」にされた方が作者の願望が出ていいですよ。